

市場に広がる ESG 投資

株式会社日本総合研究所 理事長 翁 百合

近年海外の年金などの投資家が、環境や社会的課題の解決に積極的な企業に投資をする ESG 投資を本格化している。ESG とは、環境(E)、社会、(S)、企業統治(G)を表す言葉だ。日本でも年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が 2016 年ごろからこの動きに本腰を入れ始め、機関投資家も次々ところした投資への取組にコミットしている。

背景には、投資活動を通じて投資先の持続的な企業価値向上をサポートし、その活動の結果として世界が抱える社会的課題の解決につなげようとする意図がある。

特に世界にとって課題とされる地球規模温暖化を防ぐためには、企業が温室効果ガスの排出を抑えることが欠かせない。そうした問題に配慮が足りない企業は投資家からみると、長期的にリスクが高く投資対象とはなりにくい。このような金融市場からの働きかけもあり、企業の経営者は ESG に対する意識を高め、持続可能なビジネスモデルの検討や投資家への

開示を迫られている。

ESG の取組みは資本市場だけの話ではなく、実は銀行にとっても重要である。例えば、地方銀行などは融資先の企業が中長期的に持続可能なビジネスモデルを築いて地域の社会的な課題を解決できるように、企業と対話しながら融資を通じてサポートすることが求められている。環境の側面でも、最近では地方銀行でも再生可能エネルギー向け融資などを積極化しているほか、メガバンクでは気候変動などの環境変化をリスクととらえ、その解決を目指した経営姿勢について積極的に情報開示する動きが本格化している。

金融を通じて企業の長期的な成長と持続可能な社会の実現を支援しようとする取組みは、日本においても今後も一層広がっていくと思われる。

2018年7月25日